



## てんてん祭り2011「共に」を開催して

てんてん祭り実行委員会 委員長  
石坂 裕教

共和病院文化祭「てんてん祭り」も今年で6回目を迎えました。今回のテーマは職員から応募を募り、80もの中から一番多かった「共に」に決定しました。改めて家族・地域の方々と共に手を取り合って、共に助け合い、共に生きていくという強い一体感のある祭りにしたいと思い取り組んできました。少しでも多くの方に楽しい時間を過ごしていただきたいと思い、院外からも、G.B.G.C. ゴスペルスクール、憩の郷、ユニオンホールディングス、愛知ヨーク(株)、四日市丸玉フーズ(株)、(株)三和化学研究所、(株)大和ハウス工業の皆様に加え、災害ボランティア、ホスピタルクラウン、マリンバ、手品などのボランティアの方からもご協力を頂きました。当院の模擬店、ステージ企画などを含め、合計43の催しとなりました。

職員は190人が参加し気合を入れて準備していましたが、当日まさかの2年連続降水確率100%予想となり、前日からの激しい雨の音に夜も眠れずに朝を迎えました。当日は小雨の中、早朝より実行委員会のメンバーは準備を始め、笑顔で

「おはようございます」と声を掛けあい「笑って一日を過ごそう」と決意し朝礼を迎えました。理事長の元気な挨拶と共に参加スタッフ全員で気合を入れ祭り準備となりました。10時のオープニング開始時にはすでに駐車場は満車に近く、会場は患者様、ご家族、地域の来場者でいっぱいとなり、1日を通して地域の方400名、入院患者様290名の方に参加していただきました。模擬店で、笑顔のスタッフに小さなお子さんが「ありがとう」と言っている姿を見て、地域に定着した祭りになりつつあるんだと実感しました。多目的ホールのステージには会場に人が入りきらない程集まり、各個人、病棟の個性を活かして披露された出し物は、どれをとっても素晴らしい出来上がりでした。当日までスタッフが仕事を終えて練習している姿を何度か見聞きしていたので心が温まりました。最後に今回協力して下さった全ての方に感謝すると共に、当日足元の悪い中来場していただいた皆様に御礼申し上げます。来年の第7回てんてん祭りは晴れますように。







日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク

# TOPICS・EVENT

## 今回もバラエティー豊か



空は去年と同じくあいにくの雨模様。しかしそれをものともせず、パワフルなゴスペルサウンドが会場に響き渡り、第6回てん祭りは開幕しました。

模擬店は開会と共にスタート。中庭は、うどん、やきそばやフランクフルトなどを持って歩く人でごった返し、その賑わいは午後まで続きました。汗だくになりながら焼きものと格闘しているスタッフの姿やイキイキとした呼び声は祭りを大いに盛り上げました。因みに、「なぜこの時期？」と周囲に言われ続けたかき氷ですが、予想外の売れ行きであり、当のスタッフが一番驚いていました。少し離れ、テイケア・フリージアの喫茶店、昭和の再現コーナーがある職員食堂では、皆さんゆったりと過ごして頂いていたようです。

模擬店以外の企画も、お楽しみ頂きましたでしょうか。刈谷災害ボランティアの方たちによる、遊びながら地震について関心をもってもらおう企画は、当祭り初の試みであり、特にお子さんに好評でした。初めてといえば、癒し系アザラシ型ロボットパロの展示も忘れてはなりません。ロボットとは思えない上目遣いや甘えた声に心がとろけます。恒例の健康チェック、リハビリ体験、介護相談は病院ならではのであり、今年も女性を中心に、密かな人気企画となりました。



午後の目玉はステージ企画。歌にダンス、バンドに手品、コントにマリмба・・・これを見ただけでもバラエティー豊かなラインナップであることがお分かり頂けるかと思えます。妙な動きの女装集団に笑い転げ、若者にまじって必死に踊る中年の星に勇気づけられ、情感たっぷりの歌やなつかしのメロディーに酔いしれ・・・。さらに今年はその様子の中庭にてテレビ中継するというちょっぴりハイテクな試みで、会場に入れなかった方たちにもその模様をお届けしました。

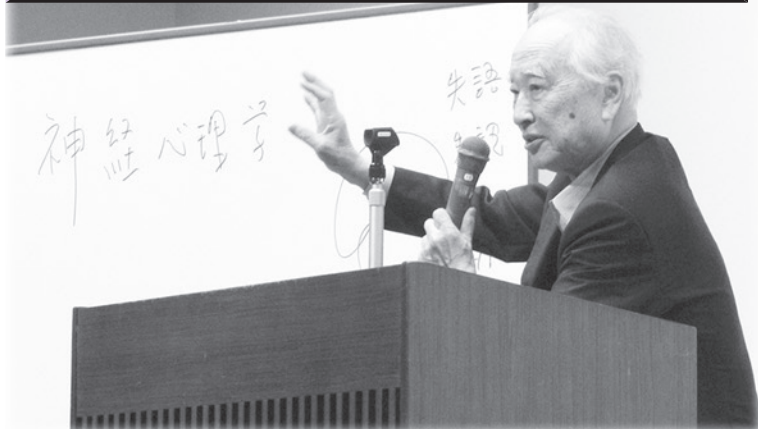
手前味噌ながら、スタッフもお客さんも「共に」楽しみ、皆が一体になれたのが今年のお祭りだったのではないかと感じております。これも、ご来場いただいた方々やご協力いただいた方々のおかげだと、実行委員一同感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

後日、一日遅れの筋肉痛に苦笑しながら、充実感を覚える我々実行委員なのでした。 てん祭り 実行委員一同





## 第13回 共和病院 地域医療フォーラム



デイケア  
小島 氏



デイケア  
藤松 氏



憩の郷  
朝熊 氏



憩の郷  
北岡 氏



愛光園  
青山 氏

平成 23 年 9 月 3 日 (土) 大府市役所において、「暮らすこと、働くこと～生活・療養・仕事～」をテーマに第 13 回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。

第 1 部は「わたしの治療経験から」の題目で当共和会の桜クリニックの笠原嘉名誉院長が講演を行ないました。講演では自身の臨床を振り返り、精神科医療の変遷について述べました。特に、向精神薬の進歩は治療に大きな恩恵をもたらしたが、その薬を渡す医師と当事者との信頼関係が重要であることは変わらないこと。また、神経心理学における自己と他者の認知を司る「社会脳」に働きかけるという見地からも、当事者と対面する診察の場こそ最も心血を注ぐべき所との考えは、筆者も臨床に携わる者として見習うべきと感じました。

第 2 部は 3 機関による就労支援の実践報告を行いました。最初に、当院デイケアの小島と藤松からは、利用者への就労支援が他のメンバーの動機付けに作用したことなどが紹介されました。次に社会福祉法人憩の郷の朝熊さんと北岡さんから、利用者が就労に至るまでには定期的な面接等が重要であること等の気づきについて述べられました。最後に、社会福祉法人愛光園の青山さんから、IPS（個別就労支援モデル）を用いた実践報告で、当事者と青山さんが相互理解を経て、働きたい気持ちを育てていく様子が述べられました。

フォーラムの最後では、当院デイケアを利用中の方より、就労支援を受けた当事者としての体験談が発表されました。「やりたいことを探すより、やれることをやっていかないと厳しい。」「肉体的、精神的にヘトヘトになりながら、一日の作業内容を書くときには魂が抜ける感じでした。」との当事者の声は切実で、支援者の想像を超えた説得力を感じました。

近年、精神障がいを持つ方への就労支援は脚光を浴びています。しかし、支援の成功に至るまでに、当事者と支援者のそれぞれが自分と相手を理解していく作業が必要であることを改めて感じました。それは、痛みを伴うものであり、特に当事者の生身の痛みは本人にしか分かり得ないものです。就労や社会生活支援への流れは当事者や支援者に新たな可能性を示すものですが、同時に、当事者にとっては痛みを伴うチャンスであることを忘れてはならないと思います。最後となりますが、参加して頂いた関係者の方々、会場の皆様、ありがとうございました。

作業療法課 安藤 喬



桜クリニック 名誉院長  
笠原 嘉

共和病院 名誉院長  
榎本 和

### 編集後記



秋の深まりが感じられる頃となりました。今年もあと 2 ヶ月ですね。3 月の震災に始まり、夏秋には台風と、計り知れない自然の力を改めて知る 1 年でした。そして、思いやること、支え合うことの意味も、ぐっと感じる 1 年でもありました。  
私事です。先日、友人と鎌倉へ旅行に行きました。かの有名な鎌倉の大仏さま、私は初めての拝観でしたが、物静かな佇まいと清々しいお顔に惚れ惚れしました。木漏れ日を受けながら眺めているのはとても心

地よかったです。慌ただしい毎日の中でつい余裕をなくしてしまっているなあと振り返り、ゆとりを取り戻せた気がします。  
当院にはたくさんの患者様、スタッフが集まり、その協力によって毎日が営まれています。思いやりや支え合いに私も加わり続けていくことができるように、こころのゆとりを大切に、皆様と「共に」日々歩いていきたいと思います。

広報誌委員会 豊田 佳子



訪問看護ステーション

ソレイユ

平成11年11月、訪問看護ステーションソレイユは、共和病院内に開所しました。

当初は医療保険での訪問看護でしたが、介護保険の導入に伴い、利用者層が小児～高齢者と幅広くなりました。対象地域は、大府市内だけでなく近隣市町村にも訪問しています。

看護師6名、理学療法士1名、事務員1名のスタッフ8名で利用者様が安心して在宅療養できるよう支援させて頂いております。

「訪問看護は、誰でも受けられるの？何をしてくれるの？」と質問される事があります。対象となる方は、かかりつけ医師（主治医）の指示により訪問看護、リハビリが必要な方で、在宅で療養されている精神疾患、難病、がん末期状態、認知症、重度障害、病気やけがにより自宅で寝たきり又は寝たきりに近い状態にある方など年齢制限はありません。

サービス内容は、①症状の観察（血圧や体温脈拍など測定・その他の

病状、療養上の相談）②日常生活における看護（清潔を保つための援助（清拭、洗髪、入浴支援）・食事、栄養指導や排泄の援助・体位変換、リハビリテーション指導）③介護に関する相談（家族への精神的援助と介護指導）④治療をすすめるための看護（床ずれなどの医療処置・各種カテーテルやチューブ管理・酸素療法、持続点滴療法管理・人工呼吸器や胃ろうなどの管理、指導・在宅ターミナルケア・服薬指導・主治医への病状報告・理学療法士によるリハビリなど）を提供しています。

事業所名の『ソレイユ』は、フランス語でひまわり、花言葉は「いつもあなたのおそばにいます」です。私たちは、花言葉のように自分や自分の家族にして欲しい看護を目指しています。

今後も、利用者様や地域に寄り添い、必要とされるステーションとなれるよう頑張りたいと思います。ご支援よろしくお祈りします。

管理者 内田 恵美



〒474-0071  
愛知県大府市梶田町二丁目29番地1  
TEL:0562-45-1171 FAX:0562-45-1172  
ホームページ <http://www.kyowa.or.jp/soleil/>  
営業曜日:月～金曜日  
(病状の変化などのご相談は24時間電話対応)  
営業時間:9:00～17:00  
休業日:土・日曜日・祝日・年末年始

お知らせ

● 12月29日(木)～1月3日(火)  
年末年始により外来診療を休止させていただきます。

● 3月10日(土)  
共和病院 研究発表会を開催します。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様に反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切にして、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>